

(様式第1号)

令和5年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	令和6年2月6日(火) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 足立 裕一 委員 中村 紀子 委員 藤田 恭子 委員 渡辺 史恵 委員 池田 恵 委員 尾上 昌希
欠席者	委員 井岡 祥一 委員 武田 誠
事務局	社会教育室長 田嶋 修 生涯学習課係長 石田 直也 青少年育成課長 富田 泰起 青少年育成課係長 芝田 勇生 青少年育成課主査 山内 健
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 令和5年度事業報告について

(ア) 校庭開放事業について

(イ) あしやキッズスクエアについて

イ 令和6年度放課後プラン事業について

ウ その他

(3) 閉会

2 提出資料

- ・ 【資料1】 令和5年度事業報告について
- ・ 【資料2】 令和6年度放課後プラン事業について

### 3 議事内容

<酒井委員長>

議題に入らせていただきます。

事務局から議題1「令和5年度事業報告について」、説明をお願いします。

<石田係長>

(配布資料:【資料1】に基づき、令和5年度事業報告(校庭開放事業)について説明)

<酒井委員長>

ただいま、事務局から報告がありました。校庭開放事業について何かご質問等ありますでしょうか。今回も忌憚のないご意見をよろしくをお願いします。

<渡辺委員>

校庭開放を実施しない期間に夏休み、春休みが入っていますが、夏休みは気温の問題で開放しないということでスタートしたのでしょうか。

夏休みなどは特に親子で遊びたいという希望があると思いますが、暑いから今の子は出てこないで場所が勿体ないということを感じていますが、これはそもそも気温の問題で仕方ないですか。

<石田係長>

校庭開放事業はいろいろ変遷がございまして、過去には現在のキッズスクエアにつながっていく事業と合同で行っていた部分がありますが、その頃から夏休みの部分は基本的には実施せず、平日の開放と土曜日の開放を基本としていました。

現状としましてはご指摘いただいたように夏の気温の部分で安全性に少し課題があると認識しています。

冬休みについても統計をとっていると、寒くなるとお子さんが出てこない、利用者数が減ってくる傾向にあるので、夏休みや冬休みは実施しない現状になっています。

日程が短くはありますが、春休みは季節がよい時期ではあるため土曜日に実施できるか検討の余地があると考えています。

夏・冬休みについては体調管理面などで課題があると認識しています。

<田嶋室長>

過去からの経過経緯の中で、当初は子どもの居場所作りということで空いている校庭を開放することから、文科省がこれから体験・経験をやっていこうということで、現キッズスクエアの体験教室型というのができました。

本市においては、通常の校庭開放については土曜日だけの開催、平日はキッズスクエア

を今開催しています。

夏休みもキッズスクエアを開催していて、そちらで充足していると考えています。

<足立委員>

開放している土曜日の参加人数が出ていますが、これは誰かが現地でカウントしているのでしょうか。

<石田係長>

校庭開放事業については、各校庭開放実施校に管理人を配置し、各校実施日にお一人に立っていただいて、何かあった時の緊急通報や人数の把握などをお願いしています。

<足立委員>

今のキッズとは別に土曜日に誰か来てくれているという感じですか。

<石田係長>

はい、そうです。

<酒井委員長>

その他不いようでしたら、あしやキッズスクエアとの関連もありますので、また最後にまとめてご意見ご要望をお出しただけたらと思います。

それでは、議題（１）のイ「あしやキッズスクエア事業について」、事務局よりお願いします。

<青少年育成課：山内主査>

（配布資料：【資料１】に基づき、令和５年度事業報告（あしやキッズスクエア）について説明）

<酒井委員長>

今年度のプログラムや児童の登録数等の状況、来年度に向けての申請等の新たな取り組みをご紹介いただきました。

あしやキッズスクエアについてご意見やご質問等があったらよろしくお願いたします。

<池田委員>

登録申請が電子申請になったので保護者からはすごく喜ばれると思います。

というのも、電子申請が一般的になっているので、仕事をしていても簡単にできるのが保護者にとってはすごくメリットかと思うので、もうちょっと登録者数が増えるのではな

いかと思います。楽しみです。

<酒井委員長>

ありがとうございます。とてもいいことですよね。

電子申請できない場合はこれまで通り紙で申請できるのですね。

<青少年育成課：山内主査>

紙の申請書も受付でお渡しできるようにします。

市役所全体でも市役所に来なくてもいい市役所を目指していく方針も出ていますので、それに沿っていくような形をとりたいというところもあります。

<中村委員>

私もこの方法はすごくいいなと思います。あとはどのお子さんでも参加できますというのをアピールすることが大切だと思います。

<酒井委員長>

周知は大切ですね。より広報をしていただいて、イラストを入れたり、これはまだ来年度の基礎的な資料ですので、事務局で検討いただければと思います。他にいかがでしょう。

<柳生副委員長>

この電子申請に関しては多言語でも可能ですか。

<青少年育成課：山内主査>

電子申請は多言語ではなく、日本語のみになります。

<足立委員>

今、潮見は外国の方がたくさんおられますが、外国の方は参加されていますか。

<青少年育成課：山内主査>

外国の児童さんについては前回の委員会の時にも話題にあがりまして、私の説明として対応できておりませんというようなことが中心の説明になっておりました。前回からの引き続きの対応として、2019年4月にアシヤニューズレターの中に詳細な内容ではないですが「小学生の皆さん、あしやキッズスクエアに参加しませんか」というのが日本語と英語を並列で記載いただいております、キッズスクエアとはこういうもので、場所、日にち、時間、お休みの日などを紹介したものをチラシとして窓口に設置しているということ、またHPのトップページのほうでも載っています。前回の委員会でその部分を説明できてお

らず、この場をお借りしてお詫びいたします。

ただ実際に外国がルーツのご家庭にキッズスクエアの内容・情報が本当に届いているのかというのが1番大切なところだと思いますが、それについてはいろいろと工夫していかないといけないと考えています。HPに載っているだけでそれで見られるかわかりませんので、そのあたりは工夫が必要だという課題は認識しています。

浜風小校区も外国のルーツの方が非常に多いということで、現場のマネージャーのみなさんとお話をする機会があり、事務局としては日本語がわからないお子さんがたくさんキッズに入って来た時にどう対応するのか、心配するところがありました。現場の方々は全然そんな感じではなく、一人ぼっちで過ごすくらいならキッズに来て、キッズに来ることによって日本語を覚えたりどんどんネットワークが広がっていったりというプラスのことを皆さん仰っていただいています。マネージャーのかたがそう言ってくださるのはすごく有難いことだと思っていて、あとは現場がうまく回っていくようにサポートするのが青少年育成課の仕事だと思っていますので、その辺のバランスをうまくとりながら、マネージャーさんたちとも随時相談させていただきながらうまくやっていきたいと思っています。

<柳生副委員長>

外国ルーツの方たちが小学校や中学校に入るときの相談に教育委員会に来ると思うが、その時に1番最初に対応されるのは国際交流課ですか。

<青少年育成課：山内主査>

学校関係でしたら、おそらく管理課になります。

<柳生副委員長>

1番最初に芦屋市内の公立の小学校に入りたいという相談があった時点で、放課後にこういう場があるというのを紹介されているのだろうかと思ひまして。

<青少年育成課：山内主査>

ご案内としては管理課からそのままこっちに案内されてこられます。

<柳生副委員長>

直接でなくてもこういう場があるというのを1番最初に入って来られた段階で紹介があれば、少しでも情報が伝わるといいと思います。

<青少年育成課：山内主査>

実際、管理課のほうから学童保育やキッズスクエアのことについてもご相談したいとの

ご要望で、管理課に行った流れで青少年育成課の窓口に来られる方もいらっしゃいますが、その辺の連携の取り方・連携強化の仕方というのを確認する必要があるかと思います。

<尾上課長>

先ほどの件で、管理課で外国ルーツのあるお子さんがいた場合には、こちらの学校支援課のほうでどれくらい日本語ができるのか調査します。

どうしてもメインは放課後というよりは授業中はどうフォローするのかというところがメインになってしまって、放課後の案内、キッズスクエアの案内まで届いていません。

放課後にも実は国際ルーム活動を潮見小学校であるとか、岩園小学校でも週 1 回実施しています。どちらかというところを勧める傾向があるので、そこは青少年育成課と話をしながら進めたいと思います。実際、子どもたちがそういう場に行ったほうが日本語を覚えるのかということもありますが、ただ、学校支援課でフォローできているのは学習言語だということもありますので、そこは調整しながら連携していけたらと思います。

<中村委員>

先日、愛護委員会でパトロールに行った時に公園で外国人の幼い兄弟が遊んでいて、日本語があまりわからないようで暗くなるまで遊んでいました。

キッズスクエアのように他のお子さんたちと混ざって遊べる場があるのを知ると知らないとは大きな差があるので、出来ればそういうところも早く進めていただければありがたいと思います。

<足立委員>

潮見の場合は、説明書とか募集が置いてありますがそれを取って見るかどうかはまた別で、子どもたちは授業に関しては補助がいる、いらぬとかありますが、遊びは全然いらぬので外国の子どもと普通にしゃべったり挨拶したりしています。

遊びと授業は全然違うのでキッズに入っていくと遊びの中で日本語をどんどん覚えていくと思うし、ぜひその子たちにもわかるように進めていって、外でうろうろするのなら学校の中で一緒に遊べればいいと思います。言葉のことは、授業では必要でも遊びでは外国の子どもと走り回って遊んでいるので、言語まで心配せずにどんどん進めてあげたいと思います。

<酒井委員長>

外国ルーツの児童の場合、来た時に生活のために膨大な情報を手に入れて処理していく必要があるのですが、全てスタートからというのはなかなか難しいと思います。ただスタートに来なかったからといって連絡を途絶えさすのではなく、ある程度たったらキッズスクエアがありますけどどうですかというような継続したフォローがあればいいと思います。

ます。

現在、芦屋ではどのような言語の児童が多いですか。

<尾上委員>

潮見では中国語、東南アジアが多くなっている印象です。

<酒井委員長>

市の他の部署の多言語化はどの程度の言語で対応されていますか。英語だけでしょうか。

<青少年育成課：富田課長>

申し訳ありません、他の部署がどこまで対応されているか把握ができておりません。

<酒井委員長>

キッズだけあらゆる多言語、サンテレビの多言語説明のような、そこまですることはなかなか難しいと思いますが、まずは他部署の多言語化に合わせていただいたらそれがいいのではないかと思いました。電子申請、外国にルーツのある児童の件、よろしいでしょうか。

それでは別の視点からご意見、ご質問ありましたらお願いします。

<尾上課長>

体験プログラムはどなたが考えられていますか。マネージャーの方なのか、青少年育成課が考えられているのかというのを教えていただければと思います。

<青少年育成課：山内主査>

元々地域の方がやってくださっているのを引き継いでというものもありますが、基本的にはプログラム、スケジュールを組むのは青少年育成課でやっています。スケジュールを組むにあたって地域の方やNPO団体さんも絡んでいただいている、BMWや外部からのプログラムの時はNPOさんに間に入ってもらったりしながら、最終的に青少年育成課で各校のプログラム、スケジュールを組んでいます。

<尾上課長>

平成30年度は体験プログラム数が866で、コロナ時期にかなり減っていると思うのですが、平成30年度は今以上にいろいろ体験プログラムをされていたということでしょうか。

<青少年育成課：山内主査>

はい、そうです。

<酒井委員長>

私もコロナ禍が始まってから関わらせていただいているのですが、プログラムの実施回数というのは今くらいが良いのでしょうか。それとももう少し多い方が良いのでしょうか。どうお感じになっていますか。

<青少年育成課：山内主査>

各小学校のキッズのスタッフにそれぞれお考えがありまして、おおまかに分けるともつと増やしたほうが良いというところと、そこまで増えないほうが良いというところのお考えがあります。今の数より減らした方が良いというお考えは現場で一切ありませんで、増やしていく方向の中で各学校のマネージャーを中心としたスタッフとよくコミュニケーションをとりながら調整していく形で進めたいと考えております。

<酒井委員長>

他、いかがでしょうか。

<柳生副委員長>

平成30年度の800回超えから、コロナ禍でほとんど無くなったところを超えて、少しずつ増えつつあるという状況だと思います。

それで800回超えのあたりでは学童さんとの連携、例えばプログラムですごく魅力的なものには学童に普段は行っているけれども、連携でキッズのプログラムに参加して5時以降には学童に戻ることが可能な連携も考えられていましたが、一気にそういう子どもたちが入りたいというプログラムが無くなってしまって、そういった連携が浜風の場合ですけど0になってありません。他の学校では連携もあるのでしょうか。

プログラムでいろいろな子どもたちが参加してみたいなと思うものが増えていくと、学童さんとの連携も増えていくのではないかと期待しているところです。

<青少年育成課：富田課長>

今仰っていただいた連携は、学童、放課後児童クラブとキッズスクエアの両方とも登録されている方で、キッズスクエアのほうに5時まで参加して終わった後に学童の延長の時間、5時から7時までだけ学童のほうに戻ってくる形での制度は導入いただいています。その利用というのは全市的にも多くはなく、年間20名弱ほどの利用になっています。まだ使いにくい、もう少し自由にとは思うのですが、同じ学校の敷地の中でどちらも実施はしているのですが、どうしても子どもさんの移動、戻ってくるはずが帰ってしまったということがあったりしますので、子どもさんの安全確保を重点に置いて実施させてもらっています。利用としてはそんなに多くはありませんがそういった取り組みはさせていただいていますので、例えば普段は学童に来てもらっているけどキッズのほうで面白い体験プロ



グラムがある時だけキッズのほうに行かれてという形は実際に使っていただいている子どもさんもおられます。

<足立委員>

学童とキッズの話が出てきていますが、学童は閉鎖的な感じでキッズは開放的な感じがしています。私が行った時にはどちらも見てみますが、学童は教室でお勉強をしているような感覚、キッズのほうはより自由な感覚。学童はそういうような決まりがあるのでしょうか。

<青少年育成課：富田課長>

学童のほうは基本的に集団生活、特に1年生から6年生まで、上級生は少ないですけど全ての学年の子と一緒に過ごす集団生活の中で、低学年の子でしたら支援員がついてみんなで行動する中で、少しずつ他の子と揉まれながら学んでいくところを生活の中心としています。

例えば、段々そういうことが出来るようになってくると、自分でいろいろ考えてやりたくなっていく。そうなってくると学童のほうはどうしてもみんなと一緒に行動が基本なので、少しそういうところからできるようになってくる子がキッズスクエアのほうに行って、キッズスクエアの子供たちは自分たちで遊びも考えて行動していく形を中心に行っている、そちらのほうに変わっていくという子どもさんも多くおられます。

それぞれの良さ、やり方があるので、利用者の方がそれに応じて選んでいただいているようなところなんです。

<酒井委員長>

連携という点では学童との連携が出ましたが、学校教育とキッズスクエアの連携はどんな感じでしょう。例えば、BMWの体験プログラムがある日に学校の先生から紹介があると良いと前々から思っていますがどうでしょう。

<尾上課長>

現在は、朝にこういった案内はあまりしていないと思います。

宮川小学校では玄関にキッズスクエアの看板を置いて、今日のプログラムが常に見える状態だったと思いますが、今日こういうのがあるからという紹介まではないです。

放課後に帰るかキッズに行くのか連絡するのにそこから変更しづらいところなので、紹介するなら前日とかになると思います。

<酒井委員長>

案外学校の先生方がすごく興味持たれて、教科等との関連でいいプログラムあるとつぶ

やかれるだけで子供たちが行きたくなったりするものかもしれませんので、また教育委員会の中の連携というところでも考えていただけたらと思いました。

連携という視点で他いかがでしょうか。

<藤田委員>

1年生の子どもがキッズに行っていた時に、帰ってきたらすごくお腹が空いたと5時ごろにおやつを食べてしまってごはんがあまり食べられないということが続いたことがあります。また一時期すごく学童に行きたいと言ってくるのがあって、「お母さんは働いていないから入れない」「なんでそんなに学童に行きたいの？」と聞いたら、「皆でおやつを食べられるから」と言っていました。公立幼稚園の預かり保育の時は、お弁当とは別に小さいタッパーに小分けのおやつを入れて持って行っていました。

先生に預けておいてキッズに行く前にもらいに行くので先生の手間は増えるけれど、学校では食べないように、交換会なしでキッズに行くと3時のおやつの時間になったら、楽しく行っていました。

それがあると、生活サイクルというか食事のサイクルが安定するのかなと思いました。

<渡辺委員>

それは本当によく思うことで、平日学校がある時は難しいかもしれませんが、夏休みとか長期休暇の時は私たちも希望することがあって、お弁当も自分たちで持ってきて購入も一応可、交換はしないということで子どもたちも徹底し始めているので、夏休みの長い時に栄養補給や糖分補給の機会があってもいいのかなと感じます。お弁当も全キッズでやっている訳ではないですよ。できるかできないかはそのキッズによると思いますが、おやつの時間のルールや設定をすることによって可能ではないかと思っております。

これは前向きに進めていただきたいです。

<足立委員>

子ども食堂があっちこっちにあるみたいで、かなり支援をいただけてありがたいことにお菓子などもたくさん入ってくるので本当は回せるのですが、どういうふうにやったらいいのかというのは繋がりがないと難しい。市全体にできたらいいのですが。

<酒井委員長>

一律におやつを与えるのはアレルギーのことがありますので難しいですが、貴重なご意見かと思えます。事務局からいかがでしょうか。

<青少年育成課：山内主査>

最初のスタートの時に地域ごとのお考えを確認しながらお弁当のことなどを決めてきた

経緯があり、一律にということは少し難しいかと思えます。ただ、今のご意見を伺っておりますと先行して進められそうなキッズもあると理解しましたので、中で進め方とかも含めてよく相談したうえで決めていきたいと思えます。

<酒井委員長>

ぜひ前向きにご検討いただければと思えます。他の件で何かございませんか。

<渡辺委員>

スタッフをマネージャー1人、管理人さん2人の3人体制にしておりまして、精道ですが、過去にシルバー人材センターの時から続けてくださっている方が何名かおられます。当初から入っていただいているのもう年数が経ちお気持ちもお体もすごくお元気な方々ですが、安全面に関して不安を感じるようになってきました。

例えば、しっかり見守りはしているのですが緊急時に子どもたちのところに走って行けるか、子どもが足を怪我して歩けない時に背負って行けるかなど、体力面で少し不安だと思う場面が出てきております。継続するかどうかのご本人の意思確認は今まではなかったのですが、継続されますかという確認があれば考える機会になるのかと思うのですがどうでしょうか。

<酒井委員長>

安全面という点から、確認・更新という点でいかがでしょう。

<青少年育成課：山内主査>

必要性はあるかと思えます。ご自身の思い、ご自身がご自身に対する認識と周りから客観的に見た時の認識などいろいろある中で難しいというのがありますが、何らかの形で立ち止まって考える、確認するきっかけがあるといいのかなと思いつながら、現時点では具体的な方法を持ち合わせていません。そういう視点から確認方法を考えていく必要はあると思えますので考えたいと思えます。

<酒井委員長>

地域の方が地域のために貢献するというのは、本当にその方のためにとっても地域にとっても素晴らしいことなので決して否定するものではないですが、状況を見て人を加えていただいたりそういったことを市のほうで考えていただくような時代なのかなと思えました。前向きによろしく願います。他いかがでしょうか。

それでは議題2の「令和6年度放課後プラン事業について」、事務局からご説明をお願いします。

<生涯学習課：石田係長>

(配布資料：【資料2】に基づき、令和6年度放課後プラン事業について説明)

<酒井委員長>

それでは、この令和6年度放課後プラン事業についてのご説明に対してご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

<柳生副委員長>

実施しない日の中の4番目ですけれども、この日は学童も休んでいる状況ですか。

学童は運動会前日や卒業式は実施しているのですか。

<青少年育成課：山内主査>

学童は実施しています。この部分は前回も話題に上がっていましたので、一律で実施しないという形で表現しておりますが、学校によっては調整可能な学校もあると思っております。学童は全部一律でやっています。

<柳生副委員長>

学童は卒業式の日もやっていますか。

<青少年育成課：山内主査>

そうですね、卒業式だからといって学童を休みにしている学校はないと思います。

<柳生副委員長>

前も話題になったと思いますが、保護者側から小さい1・2年生の子を置いて保護者だけが卒業式に参列しているという心配もあると思います。そのあたりの検討も今後必要になってくると思います。

<酒井委員長>

前回、キッズスクエアの注意書きの4つめのところで話題があったと思います。もうすぐ卒業式がやってきますし、その状況も見てということだったと思いますので継続的にご検討いただけたらと思います。他、いかがでしょうか。

<足立委員>

最後の災害の時の注意書きが気になりました。防災士で潮見小学校の防災グループを立ち上げていますが、今まで考えているのが授業中のことが中心で、放課後、キッズと学童

のことは今思えば全然考えていなかった。子どもたちが学校にいる時、授業中に地震がきた時にはどうしようかという検討はしていましたが、学校終わってしまっても5時までは子どもたちがいる、それをまた防災のほうで5時までは何名かはいるよともう一回確認しておきます。その子たちを帰すのかそのままそこで残すのか、またキッズや学童を覗いた時に担当の方と防災のほうからお話させていただきます。

<酒井委員長>

放課後プラン事業においては、緊急時のマニュアル整備はどうでしたのでしょうか。

<青少年育成課：富田課長>

学童保育もキッズスクエアも基本的には学校内で放課後に実施しているので、例えば水平避難か垂直避難かというのを各学校であらかじめ決められている内容と同じと考えています。

学童保育でしたら定期的に避難訓練を実施していますが、例えば放課後にもし地震が起こった場合、学童で預かっている子どもさん、キッズで預かっている子どもさん、それとは別に学校に残っている子どもさんがおられると思います。具体的にはその時の判断も必要かと思いますが、おそらくバラバラで動くというより一緒になって声をかけあってという対応が1番いいかなとは思ってしまっていて、地域の方にもご協力いただくこともあると思いますし、いつも放課後残っている子どもさんと一緒になってどこに避難するのか、どう行動するのかを整理することになるかと考えています。

<尾上課長>

5時くらいですと学校の先生もいますので、そういった場合には一緒に対応することになると思います。

<青少年育成課：富田課長>

仰っていただいた通り、放課後も学校にいろいろな形で子どもが残っていることを地域の方が知っていただくというのは非常にこちらも心強いです。地域の方のいろいろな手助けが絶対に必要になってきますので、そういう形で情報共有していただけるのは非常にありがたいです。

<酒井委員長>

他、全体を通しましていかがでしょうか。

それでは、議題③その他について、事務局から何かありますでしょうか。

<田嶋室長>

(社会教育室の事務移管について口頭説明)

<酒井委員長>

ありがとうございました。議題については以上で終了になります。

それでは、今日も大変寒い中、六甲おろしが本当に昨日あたりから厳しいのですが、ご参集いただいて貴重なご意見をたくさんいただきまして本当にありがとうございました。

来年度も本事業がよりグレードアップしていきますようにそれぞれのお立場でお力添えをお願いしたいですし、事務局の皆様も持続可能な形で続けていただければと思います。以上で本日の委員会を終わらせていただきます。